

げ來つた所によると、都會は子供の健康に宜しくない、都會は子供をして自然に接せしめない、都會は便利過ぎて却つて悪影響を與へる。それ故に都會は子供を育つるに都合がよいかといふ問に對しても、然り都合が宜しいと答へるとは出来ない。否寧ろ都會は子供を育つるに都合がわるいと答へざるを得ない。(をはり)

國學院大學にては校舎本館の新築落成したるを機とし左記諸大家に委嘱して來る八月一日より夏期講習を開設する由、聽講料は貳圓五拾錢なりとぞ

◎講習科目及講師

國文學の特質及其の變遷の大綱 文學博士 芳賀矢一君
(十二時間)
國文研究に必要な歴史事項 文學博士 萩野由之君
(二十四時間)

作詩法附支那戯曲小説の大要 森 槐 南君
(十二時間)

漢字漢文に關する史的觀察の一斑 岡田正之君
(二十四時間)

科 外

日本語源論沿革 文學博士 上田萬年君
文學史料としての古文書 文學博士 三上參次君
支那文學談 文學博士 市村瑞次郎君

余がノート

大元 茂一郎

はしがき

ヨハン、ハインリッヒ、ベスタロツチは、溢る許りの熱誠を以て、幾多の困苦失敗に屈せず、貧兒教育に力をつくしたといふことは、教育史の吾人に教へて居る所であるが一千年後の今日、ベスタロツチだけの赤誠を以て兒童教育に従事せるもの果して幾人かある。明治のベスタロツチは健任なりや。兒童教育は面白いもの殊に幼兒に於て然りである其思想をたゞげば天真爛漫哲人も及ばぬ奇想も出てくる。余はその奇想を知ることゝたのじみにしてゐる。これからかれ等の思想界が如何に愛らしいか、ノート中より少しづつ抽出して見たいと思ふ。

一 小學校の方が面白い
「幼稚園より小學校の方が面白いや」……と突然いひ出したのは落着いた身体の發育のよい男の兒である。「ネー忠〇さん小學校の方が面白さチ」……

そこで余は何故にと質問したら、その答に曰く、「小學校の方がめづらしいのです」

二 あの通りです。

スズメのスの字を授け、あとで此字は何といふ字です。一しよによんでごらん……ス……よくよめました。どのやうにかくのでした。誰れかいへますか……木○さん……(木○手眞似を以て示す)……余曰くよしその通りです。○さんは……と問ふと、○屹立して曰く。「その通りです」余その通りつて……と攻むれば、○も剛のもの直に黒板のスの字を指し「あの通りです」余は遂にまけてしまつた。

三 先生駄目ですよ。

運動場の看護は頗る面白い。先頃もか手玉臺の所へ出ていつたら兒童の大歓迎をうけた。余が御承知の夏向のヒゲを下から上に片手でなでて居るのを彼等の中の一人が見て、「先生駄目ですよ」何故にといつたら、みんなが口をそろへて「先生の

四 これ位です

ヒトガキマスの文を授け、讀本をひらかしめたる時挿畫を見せしめ、ヒトはどれです、そのヒトはどれ位の人だと思ひますかと問ふた。余は「私位のことでもです」との答を豫期してゐた。所が意外、○元氣よく机側に出でて讀本の挿畫位の大さを手にて示し、而して曰く、「先生これ位です」

五 私は夏がすき。

余の控室に頗るブーアであるが、一つ愉快なことがある。それは、歸る時に尋一生が「先生さよなら」といひに来ることである。その時に色々面白いはなしをきくことがある。此間も勝○が西○にひいてハツさん一年でいつがすきか？わたしも夏がすきななのといつたので、余傍より何故夏がすきななの？あつくつて花などもないのに……といふと、勝○答へて曰く、

「夏は氷あつきがたべられるから」

西○がまた、氷あつきあいしくつてよ先生!!私すきな……

六 提灯は何にするもの？

圖書の時間であつた。提灯をかゝせるので、最初

提灯の構造を問答し進んで提灯は何にするものですかと問ふたら、車夫の子供先生「く」と手をあげた。そのいふ所をさけば曰く。

「夜お父さんが車につけます」

七 御免遊べ。

かや武〇さんつてひどいよ、人の足をふんで……と上級の女の子が尋二の武〇にいふと、武〇例の可愛げな顔を少し赤くし態度を改めて、わびて曰く、

「御免遊べ」

それで上級のとがめて居た女の子も破顔一笑!!これから御免遊べの語が流行しだした。

八 それでもこわいのです。

今でも随分家庭では、子女を躰けて行く方便として虚偽を用ひ恐怖せしむることをやつて居るのか皆さんはどうなのがこのわいのですかと聞いて見ると、蛇、蛙、大風、雷、盗人、犬、獅子といふやうな實際彼等が経験したものを以て答へるものもあるが、中には、ゆーれいととか、人さらへとか、彼等が未だ経験しないものを以て答へるものがあ

る。東京市では人さらへをこの威嚇の材料としてゐるのか、これを以て答とするものが多くあつた。人さらへつて何?とさくと、「知りません」知らないのにこわいつておかししいじやありませんかといふと……「それでもこわいのです」

参考までに兒童のこわいとしてあげたものを示せば左の如くである。

人さらへ、ゆーれい、おばけ、どろぼー、おに、蛇、かみなり、こじき、狐、猪、象、地震、火事、かへる牛、犬、しし、大風、猫、

九 大福とおさつ

ある時、皆さん何がすきか一番すきなものをいつて御覽といふと、思ひくくに容赦なくいつた。人形、太鼓、刀(おもちゃの)、じよーきせん(おもちゃの)らつばふーせん、はな、鯉のぼり、お手玉……と随分多く出て。その中で一つ面白いといふよりは、むしろ可憐にさかれたのは貧しいうちの女の子の「先生!!大福とおさつ」といふ答であつた

一〇 また一つ二つと數へます。

尋一学生十三名に入學の初期の算術の時間に彼等が數へ能ふだけ數へさせて見て。

十迄のもの……………一人
 十以上二十以下のもの……………二人
 二十以上三十以下のもの……………四人
 三十以上四十以下のもの……………一人
 四十以上五十以下のもの……………一人
 五十以上九十以下のもの……………二人
 百迄のもの……………二人

その百まで數へたものにそれから如何に數へるか
 とさいて見たら、一人は百一二と數へますとい
 つたが、一人は、また一二と數へますといつた。

人生の七時期

樂 天 子



凡べて世界は舞臺にて、あらゆる男女は俳優なり、
 彼等は皆其の出口及び入口を有せり、一個の男子
 はその時に從ひて其の役を演ず、其の幕七段あり、
 第一段に於ては乳母の腕に泣き絶がり、或は乳を
 吐きもどす嬰兒となり、次には輝ける朝の顔色に
 小草提を持ちて、蛇の如く好もしげもなくうねり
 行く口さわがしき學校の生徒となり、其の次には
 情婦の眉根に溝えたる怜れなる歌曲を以て爐火の
 ごとく焦思せる情郎となり、次であやしき誓ひを
 喜び豹のごとき鬚を蓄ひ功名を貪りて之に熱し、
 忽ち怒り忽ち争ひ、炮口に臨むとも尙ほ且つ水泡
 のごとき譽れを求むる兵士となり、更に續きては、
 良き俚諺を多く辨へ、處世の方法と交際の道とを